

犬の「しっぽ」のこと、どこまで知ってる？

帰宅すると、愛犬がしっぽを盛大に振ってお出迎え。犬を飼っていて良かった…と思う瞬間ですよね。飼い主さんを幸せにする犬の「しっぽ」をクローズアップ！



しっぽの大切な役割とは

体のバランスをとる

しっぽは、体のバランスをとる働きをしています。とくに走行中にカーブするときなど、方向転換に合わせてしっぽでつまみ、バランスをとり、スピードを維持します。高速で走る動物にとって、しっぽはたいへん重要な役割を果たしているのです。

体を保温する

寒いとき、犬は体を丸め、しっぽでくるりして体を包むようにして体温低下を防ぎます。短いしっぽでは役に立ちませんが、シベリアン・ハスキーやサモエドなどの北方系の犬種は、いかに温かさなぶさぶさとしたしっぽを持っているのです。

コミュニケーションをとる

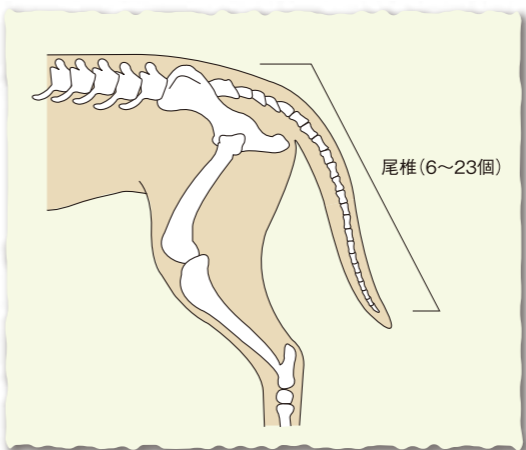
飼い主さんにとって一番身近なのは、「コミュニケーション機能でしっぽ」。うれしときにはぶんぶん左右に力強く振り、怖いときは元気がなく下げて足の間にたくし込み、「やるか！」と攻撃態勢になればピンと立ち。しっぽには、その時々犬の気持ちがとてもよく表れます。大同土、同語同コミュニケーションをとり合っているわけなのです。

しっぽの構造

たくさん椎骨から成る

では、犬のしっぽはどんな構造になっているのでしょうか。

人と犬は同じ哺乳動物ですから、形こそ違っても、骨の種類はほとんど同じです。そのなかで、骨の数が人と大きく異なるのがしっぽの骨、「尾椎」です。しっぽが退化した人では、尾椎は数個しかありませんが、犬は6〜23個あります。この尾椎は先端に行くほど細くなっているため、犬のしっぽは先が尖っているのです。



形状は多種多様

しっぽは長さも形状もさまざまで、なかには先天的にしっぽがなかったり、断尾する犬種も。代表的なしっぽをいくつか紹介する…。

<p>カールド・テール(巻き尾) 背中の上にくるんと巻いた尾。秋田犬が代表的。</p>	<p>ポップ・テール 生まれつき尾がなかったり、断尾でごく短くした尾。オールド・イングリッシュ・シープドッグや断尾したウェルシュ・コーギー・ペンブロークなど。</p>
<p>スクリュー・テール 自然の短尾で、らせん状に曲がりくねった尾。ブルドッグやボストン・テリアなど。</p>	<p>セーバー・テール(サーベル尾) 尾が上もしくは下に向くとき、サーベルのようになだらかにカーブした尾。パセットハウンドやビーグルなど。</p>
<p>オッター・テール カワウソ(otter)の尾に似て、根元が太く、先端に行くほど細くなっている尾。ラブラドル・レトリバーなど。</p>	<p>ブルーム・テール 羽状の飾り毛が垂れ下がった尾。イングリッシュ・セッターやロングヘアのミニチュアダックスなども。</p>

これ以外にも、まだまだいろんな形状のしっぽがあります。愛犬のしっぽはどんな形ですか？

しっぽに見られるトラブルとは？

骨折や脱臼を訴えることも

しっぽは、強くぶつけたり、踏まれたりすると骨折や脱臼することがあります。しっぽのケガで厄介なのは、よく動かし場所なので安静におくことが難しいこと。そのため、治療が遅くなりがちです。

しっぽが下がらなくなるときは、元気がなくしっぽが下がったままのときは、

肛門周辺にトラブルを抱えていることも。肛門のうに分泌物がたまりすぎていたり、肛門周囲に炎症を起しているたりすると、かばうようにしっぽを上げてしまうことがあります。また、「馬尾症候群」でも、しっぽが上がらなくなる場合があります。これは犬の腰椎仙椎の中を走る馬尾神経に障害を起す病気で、痛みや足腰のふらつき、放置すれば、後ろ足が麻痺することもあります。

しっぽを這う回虫も原因かも

ることがありませんか？ これもお尻の周辺に違和感を感じているのかもしれない。肛門まわりに炎症がないか、しっぽやお尻にノミなどの害虫がついていないかチェックを。また、犬が退屈やストレスを感じているときにも、しっぽを這い回します。

最近では、「常同障害」と呼ばれる病気も注目されています。同じ行動を目的もなく繰り返す病気で、自分のしっぽを這い回すのもその一つ。柴犬に多発することが知られていますが、遺伝的な要因が疑われていますがまだ説明はされていません。

犬のしっぽ

雑学 Q & A

愛犬が断尾されていたことを知りませんでした…

断尾は通常生後4〜5日で行われます。飼い主さんが愛犬を迎えたときにはすでに済ませていて、気づかない方も多いかもかもしれません。断尾は、もともと牧羊犬や闘犬が傷つきのを防ぐためとか、狩猟の際に尾が草木に触れて音がするのを防ぐためなどの理由で始まったとされています。今では主に外見上の美観を目的に行われていますが、家庭犬に必要なといえません。海外では、動物愛護の観点から禁止する国も増えています。



犬はうれしいとき以外もしっぽを振るの？

しっぽはうれしいときだけでなく、緊張や警戒が高まったときにも振ります。犬の感情は、しっぽだけでなく、表情や耳の動き、体勢なども合わせて読み取ることが大切です。

ちなみに、イタリアの研究チーム(2007年、トリエステ大学のジョルジョ・パッロルティガラ氏ら3名が発表)によれば、犬はうれしいときにはしっぽを右に大きく振るのだとか。飼い主に対しては右に大きく、他人や猫の場合は右でも小さく、攻撃的な見知らぬ犬に対しては左に振るといふ実験結果が出たそうです。

さて、真偽のほどは…。愛犬はあなたに、しっぽを盛大に右に振ってきますか？